

第 7 回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和 8 年 7 月 30 日（木曜）		午後 4 時 30 分		開会
	休 憩 16：59-17：10				
	午後 5 時 12 分 閉会				
	休憩時間：0 時間 11 分		会議時間：0 時 31 分		
会 議 場 所	役場 3 階委員会室				
出 席 委 員 氏 名	委員長 木村 淳彦		委 員 伊藤 稔		
	副委員長 堀切 忠		委 員 菊池 秀明		
	委 員 正村紀美子		委 員 鈴木 健充		
	委 員 早苗 豊				
説 明 員					
参 考 人					
欠 席 委 員 氏 名					
事務局職員	総務係主査 大石真澄				

『会議に付した事件と会議結果など』

1 開 会

委員長が開会を告げ、事務局から本日の委員会の日程を説明する。

2 議 件

（1）調査事項

ア 先進地事務調査について 資料 1

- ・委員長：視察先は 1 か所だが、視察目的に沿った調査が可能であり、先進地事務調査を実施したい。
- ・委員長：資料の説明を求める。
- ・堀切副委員長：資料説明
- ・委員長：意見はないか。
- ・伊藤委員：視察先が 1 か所では効率が悪いと感じる。また、飯田市は市街地が連続する地域という印象があり、芽室町の農村部や山間部とは事情が異なると思うが、そのような地域の実態も調査できるのか。
- ・委員長：複数の自治体と調整したが、日程が合わず 1 か所となった。今回の目的は、単一町内会単位ではなく、より広域的な地域コミュニティの在り方を調査することである。第 6 期総合計画や地域集会施設の再整備を見据え、市街地と農村部の双方に参考となるコミュニティの在り方を学びたい。
- ・早苗委員：地域コミュニティは委員会の重点調査事項であるが、10 月の視察では、

その後の議論や取りまとめが遅くなるのではないかと感じる。昨年度から調査を続けているものの、委員会内の議論は十分深まっていなと感じる。また、飯田市は地域自治区制を採用しており、芽室町とは自治の在り方が異なる。時期や費用対効果を考えると、今回は視察を見送ってもよいと考える。

- ・委員長：年度末に向けて新たな地域コミュニティの在り方を議論する必要がある。小規模な地域コミュニティの維持が難しくなる中、集会施設を核とした広域的なコミュニティを検討することは重要である。第6期総合計画にも関係することから、自治制度に違いがあっても、子育て、防災、高齢者支援などにおける施設活用は参考になると考えている。
- ・正村委員：まず委員会内で、新しいコミュニティや地域集会施設の在り方について議論を深め、その上で視察の必要性を判断すべきではないか。現状では視察が先に決まっているように感じる。委員間の共通理解が十分でないため、今回の視察は再検討すべきである。また、年度末を待たず、早期に委員会としての結論をまとめる方法もある。
- ・委員長：地域集会施設再整備計画との関係で、これまで十分な議論を進められなかった点は反省している。一方、集会施設の再整備は地域コミュニティと切り離せない課題である。町に要望書も提出しており、今後の計画や施策につなげるためにも、飯田市の実態を現地で調査したい。次回委員会で町から再整備計画の報告を受け、その内容を踏まえて議論を進め、10月の視察を迎える予定である。
- ・鈴木委員：視察先が1か所であり、予算が約90万円となることから、十分な費用対効果が得られるのか疑問である。
- ・委員長：飯田市は特に先進的な事例である。長野県までの移動を考えると、1か所でも2泊3日が必要であり、2か所目を組み込むのは日程上困難である。北海道とは異なる施設運営や地域コミュニティの実態を現地で確認し、委員会で議論するための題材とすることには費用に見合う効果があると考えている。
- ・菊池委員：規模や文化の違いは考慮する必要があるが、新しいコミュニティの答えを模索する上では、現場を見ることで新たな発見が得られると考える。委員会内の議論と現地視察を並行して進めてもよいのではないかと考える。
- ・委員長：意見として受け止める。
- ・早苗委員：委員長の考えは理解するが、年内に委員会として一定の結論を示さなければ、次の施策につながらないと考えている。年度末にまとめても、次年度の地域集会施設や総合計画への反映が難しくなり、委員会の意見が宙に浮く可能性がある。時期や費用対効果を踏まえると、この時期に視察する必要はないと考える。
- ・委員長：視察時期を10月とすることは、これまで委員会で確認して進めてきた。視察後は直ちに議論し、年内の方向性整理を目指したい。町に提出した要望書についても、町長から今後の計画や実施段階で十分検討する旨の回答を得ており、委員会の調査が無駄になることはないと考えている。
- ・正村委員：当初は町の担当職員も視察に同行する予定だったと思うが、現在の調整状況を伺う。
- ・委員長：町へ要望した結果、担当職員の同行について了解を得ている。ただし、視察

先が1か所となったことや再整備計画の状況もあるため、委員会で視察実施を決定した後、改めて担当課へ申し入れる考えである。

- ・正村委員：第6期総合計画に地域コミュニティを位置づけるのであれば、まず委員会内で集会施設と地域コミュニティについて議論を深め、共通認識を形成すべきである。飯田市の事例は現地に行かなくても資料から学ぶことができるため、12月頃までに委員会の報告をまとめる方が抽出事業として充実するのではないか。
- ・委員長：地域集会施設とコミュニティは、防災、子育て、高齢者支援、地域担当制など、まちづくり全体に関係する課題である。単一町内会単位ではない広域的なコミュニティを考える上で、飯田市の取組を現地で確認し、委員会での議論につなげることには意義があると考えます。
- ・正村委員：委員長の考えを否定するものではないが、飯田市についてはインターネット上に多くの資料があり、現地に行かなくても得られる情報は多い。委員会内の議論を優先すべきではないか。
- ・委員長：事前にインターネットや資料で調査し、その上で現地の実態や運用状況を確認することが視察の目的である。資料調査と現地調査を並行することには意義があると考えますが、視察は委員会の総意で行うものであるため、各委員の意見を踏まえて判断したい。
- ・正村委員：視察そのものを否定するものではないが、現時点では時期が適切ではないと考える。今回は資料調査と委員間の意見交換を進め、抽出事業の報告に反映する方法もある。
- ・委員長：意見として受け止める。委員会の総意を確認するため、暫時休憩する。
- ・委員長：各委員の意見を踏まえると、委員会の総意として視察を実施する状況にはないため、今回の先進地事務調査は取りやめとすることによいか。
- ・（異議なし）
- ・委員長：異議なしと認め、今回の先進地事務調査は取りやめとする。以上で協議事項を終了する。

3 その他

（1）次回委員会の開催日程について

令和8年8月19日（水）9：30から

（2）その他

- ・委員長：「その他」で各委員からないか？
- ・（なし）
- ・委員長：事務局からないか？
- ・（なし）

以上をもって、総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	0名	合計	0名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和8年7月30日

総務経済常任委員会委員長 木村 淳彦

議 長	副議長	局 長	係 長	主 査	作成者氏名 大石 真澄